第百六十一師団独立歩兵第四百七十八大隊（震天第二三一四六部隊）略歴

陸軍大尉　大川戸辰蔵

年月日	摘要
	部隊名 第百六十一師団独立歩兵第四百七十八大隊 通称号　震天第二三一四六部隊
	部隊長官位名 初代大隊長　陸軍大尉　大川戸辰蔵
四、三〇、四、一三	編成完結状況 軍令陸甲第六十五号に依り 臨時編成下令
四、三〇	登録部隊を以て編成せらる 中支上海同文書院大学に於て異常なく完結す 本部は 小銃中隊　四 機関銃中隊　一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	歩兵第中隊　一
	通信隊　一　なり
自昭、三〇、一、三八 至五、一	上海地区（美華村浦東地区）附近築城及警備に任ず
八、一一	北支方面に急進のため築城中止
	高兵団と交代す
八、一四	終戦の勅語を賜い
八、一六	上海出発
	南京市内に移動
	主力を以て津浦線南段滁県地区土匪討伐
	及警備隊救助に出動
	（才一独立警備隊　独立警備歩兵才六大隊）
	爾後司地及南京市内警備に任ず
自九、一五 至二、一、二三	南京城外許家村築中営にあり勤務
一、二三	内地帰還のため南京出発　上海集結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭、二、二、一九	上海港出帆
二、二三	佐世保港上陸
	復員式挙行
	主力召集解除

兵力（入院、生死不明、死亡区分）

兵力		事故別						
		入院	生死不明	戦傷	戦死	病死	脱隊	摘要
将校	四六	二	六	八		一（内自殺一）	三	
准士官								
下士官	一四〇	四		一七				
兵	二一五六	六七	四	一三六	一	三八	二九	
計	一三四三	七三	一〇	一六一	一	三九	三二	

特殊事項

残務整理者として大隊長　大川戸辰蔵　曹長　北村久幸

自 昭、二一、二、二三
至 年月日

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二日市町役員本部に在りて整理に任ず	昭三、四、八
兄弟す	
固有部隊名	
独立歩兵第四百七十八大隊	
通称号	
夏天第二三一四六部隊	
編成年月日	
昭和二十年四月三十日	
編成地	
中支上海東亜同文書院大学（美華村）	
編成（編制改正）の概要	
編成当初概ね兵備は充足せられあり	
終戦前には急造編制間（四〇）の支給あり	二〇、八、一四
廢支年月日	二、三、八
廢支当初の駐屯地	
上海	
行動概要	
上海附近の警備及警備に任ず	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、八、一七	終戦後は南京に移駐す
	之の間南京附近に出動
〃	同地附近の警備
九、一五	南京集中営に入る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十一師団歩兵第百二旅団独立歩兵第四百七十九大隊略歴

陸軍大尉　木藤重信

年月日	概要
昭三〇、一、六	陸亜機密第十三号に依り仮編成下令
	歩兵第百四十三連隊衛兵隊に於て仮編成実施
一、一〇	独立混成第六十二旅団独立歩兵第三大隊の編成完結
	大隊本部
	歩兵中隊　（四）
	機関銃中隊
	歩兵砲中隊
	通信隊
	大隊長
	陸軍大尉　木藤重信　以下一千四百七十名
三、一五	上海に於て
	待機間臨時支隊独立歩兵第三大隊と改称さる
四、一二	軍令陸甲第六十五号に依り臨時編成下令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭、二〇、四、二五	大隊は奠州鎮に於て編成に従事し
	江蘇省清東地区に移駐し
四、三〇	編成完結
	独立歩兵第四百七十九大隊編成なる
	大隊長
	陸軍大尉　木藤重信
	本部
	第一
	第二
	第三
	第四中隊
	機関銃中隊
	歩兵砲中隊
	通信隊
	各編成し
	編成総員　大隊長以下　一千二百五十一名
	現　在　二員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二〇、一、一〇	独立混成第六十二旅団独立歩兵第三大隊の編成完結後
一、一八	歩兵第百四十三連隊第九隊に於て待機中
一、二〇	熊谷出発
	下関出港
	同日 塘沽着
一、二八	小海関通過
一、二八	上海着
一、二八	大隊は上海江湾呉淞台に宿営し
一、二八	広東に向うべく乗船待機中戦況の推移上海上陸輸送困難となりたるため
三、一五	遂に支隊独立歩兵第三大隊と称呼せられ
	第十三軍司令官の指揮下に入り
	光号作戦準備のため
	上海南地区真如鎮附近の陣地構築を命じられ
	爾来
四、二二	に至る間
	同地附近の築城に従事す
四、二五	真如鎮附近の築城を
	第六十一師団に申送りし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	既	歴
昭三〇、四、二五	江蘇省浦東地区に戦進す	
四、三〇	第百六十師団独立歩兵第四百七十九大隊と改編	
	浦東地区に於て光浮洲戦準備に従事し	
	八月下旬を目途とし既設陣地構築を完了せり	
八、上旬	「ソ」連は宣戦を布告するに至り「満ソ」国境方面の戦況急迫を告ぐるや	
	師団は全力を以て急拠北方に戦進を命ぜられ	
	大隊は第三梯団として出発準備中	
八、一四	夕刻如大隊主力を以て上海防衛司令官の指揮下に入り	
	治安維持に任ずべき命を受け東亜同文書院に戦進す	
八、一五	停戦の大命を拝す	
	大隊は	
八、一六	上海を出発し	
八、一七	南京着	
	第六軍の指揮に入り南京城内地区の警備に任ず	
八、一八	軍令陸甲第百十六号に依り復員下令	
九、二五	大隊は蘇州門鎮に集結	
一〇、二八	南京城外衛家湾に移動集中皆を設置し復員を準備す	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭三、三、一六　内地帰還のため衛家湾出発

二、一七　汽車姑兵舎着

同日より乗船を待機す

三、九　飯田桟橋よりLST 033号に乗船

三、一三　佐世保港上陸

三、一四　復員を完了す

兵力

復員したる部隊中百六十一師団独立歩兵第四百七十九大隊

上陸人員、大隊長　陸軍大尉　木滝重信以下九百四十六名

復員したる人員、陸軍大尉　川長哲二以下九百四十三名

上陸後残務整理者　大隊長　陸軍大尉　木滝重信以下三名

入院患者　陸軍中尉　岩城敏則以下百六三名

生死不明者　本土兵備要員、職員将校二名

逃亡兵二名（内一名は朝鮮出身者）

死亡者　故陸軍中尉　早川光吉以下五〇名

（新城前の五名会）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	摘要	備考
	上海に於ける兵站勤務中隊を編成復置し 才百六十一師団に戦属す 中隊長　陸軍大尉　梅田銑彦以下百三十六名	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四百八十七大隊略歴

陸軍大尉　玉置文雄

年月日	概要
昭、二〇、一、六	陸亜機密第十三号に依り仮編成下令
、	歩兵第三十七連隊に於て仮編成
一、一五	編成完結
	香港防衛司令部波香港隊独立歩兵第六大隊
	大隊長　陸軍大尉　近藤伝吉以下一千四百七十名
一、二三	同日大阪出発
一、二四	門司出帆
	釜山着
二、一	山海関通過
二、五	上海着
二、五	上海東亜同文書院大学に宿営
	同日より香港に向い乗船待機中なるも戦況の関係上海上輸送困難となりたるため

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、三、一八	才十三軍司令官の指揮下に入り 部隊名 登光支隊才四大隊と称呼せられ 上海江湾鎮附近の陣地構築を命ぜられ 大隊は上海江湾西兵舎に移駐し 同日より陣地構築に従ず
四、一六	軍令陸甲才六十五号に依り臨時編成下令 大隊は江湾西兵舎に於て編成に従事し
四、三〇	編成完結
〃	独立歩兵才四百八十大隊編成なる 大隊長 陸軍大尉 近藤仁吉 本部 才一 才二 才三 才四中隊 機関銃中隊 歩兵砲中隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	通信隊
	を編成し
	編成総員大隊長以下　千二百五十七名　馬一〇三頭
昭二〇、四、一六	上海浦東地区に移駐
	同日より陣地構築に任ず
七、九	大隊長近藤伍吉は少佐二旅団副官として転任
	同日少佐二旅団副官陸軍大尉　玉置文雄　少尉の大隊長として着任す
	陣地も完了に近ずく時は八月上旬全般の戦況逼迫し遂に
	ソ連は宣戦を布告するに至り「満ソ」国境方面の戦況急迫を告ぐや
	而して全力を以て急速北方に転進を命ぜらる
	大隊は第二梯団として上海を発せんと準備中
八、一六	停戦の大命を拝す
	大隊は同日上海を出発し
八、一七	南京に至り第六軍の指揮下に入り南京城内地区の警備に任ず
八、一八	軍令陸甲第百十六号に依り復員下令
九、二八	大隊は南京城外兵化門附近に集中皆を設置し復員を準備す
二、一、二一	内地帰還のため兵化門を出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭、二、一、二二	上海江湾着
	同日より乗船待機
二、一六	飯田枝橋より米軍リバティ型V〇十三号ダビットストン号に乗船
二、二〇	博多に上陸
	同日復員を完了す
	復員をしたる部隊名　第百六十一師団独立歩兵第四百八十大隊
	上陸後復員を完了したる人員　陸軍大尉　南清一以下　九百七十七名
	上陸後残務整理者　大隊長　玉置文雄以下　二名
	復員時に於ける入院患者総数（現地に残留）　九十三名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十一師団独立歩兵第四百八十一大隊（歩兵第三、四九部隊）略歴

陸軍大尉　小堀義雄

年月日	説明
昭一〇、四、一二	軍令陸甲第六五号に依り臨時編成下令
四、三〇	中支上海同文書院大学に於て編成完結
四、一二	上海同文書院大学出発
	江蘇省浦東に到着
五、一〇	浦東地区浦江沿岸を包囲周辺の陣地構築に任ず
八、一一	北支方面に急遽のため築城を中止し奪兵団と交代す
八、一四	平和克服に関する大詔渙発せらる
八、一六	江蘇省上海駅出発
	南京に向う
八、一七	江蘇省南京着
	同日より南京貨物廠の警備に任ず
	同日軍令陸甲第十六号に依り全軍復員を命ぜらる
八、二〇	南京貨物廠警備を独歩四八〇大隊独歩四七九両大隊と交代

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	同時に南京市内直援警備の予備隊を命ぜらる
八、二〇	獣医務下士官田中伍長以下三名現地（南京）召集解除す
八、二一	飛行場警備を命ぜられ第四中隊を該任務に服せしむ
八、二五	南京中華門及蕪湖線の警備を命ぜられ
	同日前警備隊と第二中隊を交代服務せしむ
九、二	停戦協定締結
	同日に於ける本部附将校及各中隊長左の如し
	本部附将校
	副官大尉　小山光三
	中尉　吉井通夫
	少尉　蔭谷　達
	主計少尉　柳本孝三郎
	主計少尉　永誠三郎
	軍医大尉　笠井　正
	軍医中尉　内藤　甫
	軍医少尉　武田　肇
	獣医少尉　田所啓一郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	第一中隊長大尉　竹田末太郎
	第二中隊長中尉　高田與一
	第三中隊長大尉　加茂俊一
	第四中隊長大尉　中島政司
	機関銃中隊長大尉　河野広平
	歩兵砲中隊長大尉　小林啓次郎
昭一〇、九、六	第三兵站病舎より獅子山兵舎に転営を命ぜられ
	同日移動完了
九、七	第四中隊の飛行場警備を中国進駐軍と交代復帰を命ぜらる
九、一〇	白川少尉以下一八名現地（南京）除隊
	「召集」解除す
九、一二	南京郊外仙霞門鎮に移駐に命ぜられ行動開始す
九、一九	移駐完了
一一、一、一六	上海移動準備
一、二〇	朝鮮出身者兵九名現地（仙霞門鎮）除隊せしむ
一、二二	部隊残余建造物、兵器、被服、糧秣その他軍需品一切を中国軍に引渡し完了
一、二三	内地帰還上海集結のため発化門駅より列車輸送に依り出発
一、二五	上海兵站宿に集結完了　乗船待機

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、二、一六	帰還のため上海港出帆
二、二〇	博多港に上陸
	同日復員完結
	部隊解散
二、二〇	残務整理者
	部隊長大尉　小城義雄外一名
	復員本部附
	復員時に於ける人員左の如し
	総人員　一三二九名
	内訳
	内地除隊者　九七二名
	現地除隊者　二七名
	戦死者　一六三名
	入院退者　一〇五名
	死亡者　六二名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四百八十一大隊（原大第二三一四九部隊）略歴

年月日	概要
昭一〇、四、三〇	編成
	編成地
	中華民国江蘇省南京東亜同文書院大学に於て
四、三〇	渡支
	渡支迄初駐屯地
	中華民国江蘇省上海
四、一二	軍令陸甲第六五号に依り臨時編成下令
四、三〇	上海同文書院大学に於て編成完結
	同日より上海附近の警備並に築城
八、一六	北支方面に急進のため上海出発
八、一七	南京着
	同日より第六軍の指揮下に入り南京附近の警備に任ず
二、一、二三	対地帰還上海集結のため南京出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、一、二五	上海兵器廠に集結
	乗船待機
二、一六	上海港出帆
二、二〇	博多港上陸
二、二〇	復員完結
	部隊解散

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十一師団砲兵隊略歴

陸軍少佐　川口辰蔵

年月日	概要
昭、三〇、一、七	広島に於て陸軍省第十三号により 独立混成第六十二旅団砲兵連隊の編成を下令せられ 連隊長　陸軍中佐　野沢勝之輔以下四二九名を以て 本部及十榴二中隊の編成に着手し
一、一〇	編成を完結す
一、二六	上海に到着
	江湾西兵営に宿営せる
	独立混成第六十二旅団砲兵連隊要員は同地に於て広東に向う乗船準備を完了
三、一五	待機中海上輸送困難となるや輸送を中止せられ 野沢中佐の指揮引率せし 本部及十榴二中隊の外上海に待機中なりし 波香、汲潮、登陸の各部隊編成要員たりし 山砲三中隊及十榴二中隊計七中隊を以て

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	陸軍中佐 野沢勝之輔連隊長となり
	登光砲兵連隊を編成し
	第十三軍司令官 松井中将の指揮下に入らしめられ
	更に第六十一師団長 田中中将の指揮下に入れり
	登光砲兵連隊本部は上海第五国民学校に宿営中
昭、三〇、四、一二	軍令陸甲第六十五号により
	第百六十一師団の臨時編成を下令せられ
	登光砲兵連隊は
	本部及
	十個第一
	第二
	第三中隊
	を以て第百六十一師団砲兵隊の編成に着手し
四、三〇	編成完結し
	陸軍少佐 川口長蔵
	初代砲兵隊長となる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

編成人員

砲兵隊長以下五二五名

馬　四三五一頭

火　砲　十一年式十糎榴弾砲　十二門宛り

爾余の砲兵中隊は夫々他師団の編成内に入らしめられた

広島に於て編成を完結せる

独立混成第六十二旅団砲兵連隊豊員は

連隊長陸軍中佐　野沢勝之輔

の指揮をうけ

広島出発

同日博多に到着宿営し

博多港出発

同日釜山港着

上陸す

鮮満国境を通過し

満支国境山海関を通過し

上海江湾着

昭二〇、一一八

一、一九

一、二二

一、二三

一、二六

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	西兵営に宿営し広東に向う
	宋哨を撃滅し特機す
昭、二〇、三、一五	編成を完結せる豊光砲兵連隊は
	各中隊を才六十一師団長麾下の歩兵連隊に夫々配属し
	光号作戦準備を命ぜられ
	上海周辺地区の陣地構築及警備に任ず
	編成を完結せる才第六十一師団砲兵隊は
四、三〇	光号作戦準備を命ぜられ
	主力を以て歩兵才一〇二旅団に
	一部を以て歩兵才一〇二旅団に夫々配属せられ
	主力は上海浦東地区に
	一部は上海南地区の陣地構築及警備に任ず
八、上旬	全般の戦局逼迫し遂に
	ソ連は宣戦を布告するや満ソ国境方面の戦況急迫を告ぐるや
	師団は全力を以て急拠北満に転進を命ぜられ
	砲兵隊は才二機団に入り
	機団歩兵才一〇二旅団長の指揮に属し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二〇、八、一五	逐次上海駅を出発逐進中
	八月一五日正午停戦の大命を拝す
八、一六	師団砲兵隊の主力は
	上海駅出発
八、一七	南京に到着す
	爾後師団は第六軍司令官　十川中将の指揮下に入る
	師団砲兵隊は南京城内和平門附近に宿営し
	一部を以て歩兵第一〇二旅団に配属し城内の警備に在ず
八、一八	軍令陸甲第百十六号により復員を下令せらる
	師団砲兵隊は復員準備中移駐のため
九、二二	和尸門出発
	同日江蘇省江寧県華陵に宿営地を移転し
	復員を準備す
一〇、三一	更に移駐のため行軍鎮出発
	同日江寧県杏家塘に到着
	爾後業中隊を設置し
	同地に於て引続き復員を準備す
二一、一、二三	内地帰還のため江寧県杏家塘出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭、三、二、二五	一時榎陵街集中所に待機し
二、一六	榎陵街出発
	上海江湾到着
	旧歩信第十三連隊号に宿営し
	架船準備を完了待機す
三、九	飯田港橋よりLST　Q〇才三十六に架船
三、一三	博多港に上陸
	同日復員を実施す
	その他
	復員を実施したる部隊
	第百六十一師団捜兵中隊
	上陸後復員したる人員
	陸軍主計大尉　大塚保以下四九四名
	上陸後残務整理者
	捜兵隊長陸軍少佐　川口板蔵以下二名
	復員時に帰郷入院患者総数（現地残留）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一六兵站勤務隊職出人員

陸軍中尉　藤井利夫以下　一〇名

入院患者

陸軍曹長　原田金二以下　三二名

死亡せる人員

陸軍曹長　竹内一三以下　二八名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十一師団工兵隊略歴

陸軍大尉　白石兼一

年月日	概況	要
昭二〇、四、二二	上海に於て軍令陸甲第六十五号により第百六十一師団工兵隊臨時編成下令	
四、三〇	編成完結	
	陸軍大尉　白石兼一　被補第百六十一師団工兵隊長	
	第隊編成本部　三ヶ中隊　浙江小隊	
	部隊編成定員	
	将校　二五	
	下士官　九四	
	兵　七八二	
	計　九〇一名	
自 四、三〇	上海附近の陣地構築作業に従事	
至 八、一五	（一六一師作命甲第一号）	
八、一六	移駐のため上海出発	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二〇、八、一七	南京着
八、一八	軍令陸甲第百十六号により復員下令
八、二五	本部時を以て中国派遣軍は作戦任務解除の大命を拝す（一六一師作命甲第二七号）
九、一九	江蘇省江寧県棲霞山に移駐
一二、二八	南京市内の道路修築作業隊として派遣（一六一師作命甲第五二号）
	将校　二
	下士官　四
	兵　三三
三、一、二〇	内地帰還のため
	江蘇省江寧県棲霞山出発
一、二一	上海着
二、二二	上海出帆
二、二五	博多着上陸
	同日復員式完了
	復務整理者（白石大尉、神野軍曹）を除き
	帰郷せしむ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	摘要
	人員 將校　二〇名 准下　七六名 兵　六五四名 計　七五〇名

(456)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十一師団通信隊略歴

陸軍大尉　田中七郎

十月日	要
昭、二〇、一、六	陸軍機密第一三号により部隊の編成を命ぜられ
一、一四	大阪市東区谷町に於て第百師団通信隊として
	将校以下二百四十八名を以て編成を完結
	将校にありては完結の日を以て香港防衛司令部附に転属せしめられ
	陸軍中尉　川口　勝
	指揮の下に
一、一六	大阪出発
一、二〇	鮮満国境安東通過
一、二一	日満支国境山海関通過
	准士官以下二百名以て香港防衛隊に戦属せしめられ
二、四	上海に到着
	直ちに駐屯地上海郊山路東部同文書院大学に駐屯す
三、八	第六十一師団の指揮下に入ると共に軍隊区分に依る名称を陸光支隊通信隊と

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	して上海地区の警備に任ず
	昭和二十年軍令陸甲第六十五号により
昭、二〇、四、一二	第百六十一師団編成を令せられ
	部隊長陸軍大尉　原田良雄以下三百二十二名
	登光支隊通信隊を基幹として
四、三〇	第百六十一師団通信隊の編成を完結す
六、一六	部隊の一部上海浦東地区欄泥渡に移駐し
八、一	主力の移駐を完了
八、一六	更に移駐のため上海出発に至るまで
	上海地区警備通信網の構成並陣地構築に任ぜり
八、一二	陸軍大尉　田中七郎　部隊長として着任し、
八、一六	上海出発
八、一七	南京着
	海軍地区たる南京第二日本人国民学校に駐留す
九、五	南京金陵女子大学に移駐
九、一六	中支那派遣野戦自動車廠南京支廠に移駐
九、一八	江蘇省江浦県陳庄に移駐

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭、三、三、一六　内地帰還のため陳庄出発
二、一七　上海着
三、一〇　上海出発
三、一三　博多港に上陸
全員帰還を完了す
三、一三　兵力左記の如し
入院患者　二八名
死亡者　二〇名
生死不明者　五名
戦線者　一一名
内地帰還者　三三二名
現　除　九名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十一師団輜重隊（第六第三一五三部隊）略正

陸軍少佐　勝間田忠重

年月日	摘要
昭、二〇、一、六	陸亜機密第十三号により編成下令
一、一〇	編成完結
	（編成管理部隊第守第五十五師団司令部）
	編成担任部隊並所在地
	輜重兵第五十五連隊補充隊（中部第八十九部隊）
	香川県　善通寺町
	編成部隊名
	登連部隊輜重隊
	（独立混成第六十二旅団司令部要員）
	編成の概要
	本部
	聯隊中隊　二
	舟艇中隊　一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部隊長　陸軍少佐　勝間田忠重

人員

部隊長以下　一、〇六七名

昭、二〇、一、二三　善通寺出発

一、二三　博多港出航

一、二五　釜山着

一、二七　山海関着

一、三一　上海到着

自　一、三一　上海附近の警備

至　三、九

三、五　軍令陸甲第十八号により臨時編成下令

三、一〇　編成完結

（編成管理部隊、第十三軍司令部）

独立混成第六十二旅団編軍隊

本部

琵琶中隊　二

部隊長　陸軍少佐　勝間田忠重

人員　部隊長以下　一〇六六名（編成定員　八六五）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭二〇、三、一〇 至 四、二九	上海附近の警備並樂城輸送
四、一二	軍令陸甲第六十五号により臨時編成下令
四、三〇	編成完結
	（編成管理部隊第百六十一師団司令部）
	第百六十一師団輜重隊
	本部
	駄馬中隊　二
	舟艇中隊　一
	部隊長　陸軍少佐　勝間田恕重
	人員　部隊長以下　一〇六五名（編成定員　九八五）
	馬匹　五九〇頭
自四、三〇 至六、一五	上海附近の樂城輸送並警備
八上旬	戦局の急変りより師団は全力を以て急拠北方に転進を命ぜられ部隊は師団命令により第四梯団としてまず南京に向い前進を命ぜらる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭、二〇、八、一五	停戦
八、一六	軍令陸甲第百十六号により復員下令
八、一七	第十三軍命令により自動車中隊一を編入し舟艇中隊を駐出
八、一七	移駐のため上海出発
八、一八	南京着
自 八、一八	部隊主力は南京市内に在りて
至 九、二二	警備並輸送の一部は
	第一〇二旅団長の指揮下に入り
	南京地区の治安確保
九、二三	移駐のため南京出発
	同日麒麟山着
自 九、二四	南京郊外麒麟山集中営に在りて復員準備
至 二、二、一五	
二、二、一五	帰還のため南京出発
二、一六	上海着
自 二、一六	上海に在りて乗船待機
至 三、八	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三、三、九	上海出帆（LST　Q〇四二号）
三、一三	博多港上陸
	同日復員完了

復員部隊名　第百七十一師団輜重隊

人員

部隊長　陸軍少佐　勝間田忠重以下八九四名

内訳

少佐	大尉	中尉	少尉	准尉	下士官	兵	計	備考
一	四	五	一二	二	五四	八一六	八九四	残務整理者少佐一下士官一を含む

復員時における入院患者　一一九名

編成以来の死亡者　一二〇名

編成以来他部隊へ転属者　一六九名

編成以来他部隊よりの転入者　二三六名

生死不明（迷亡）者　一名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	第一六十一師団輜重隊
	通編　電天第二三一五二部隊
昭二〇、一一〇	善通寺　輜重兵第五五連隊補充隊編成
一一〇	登集部隊輜重隊（独立混成第六二旅団司令部要員）編成完結
三五	軍令陸甲第一八号により臨時編成下令
三一〇	独立混成第六二旅団輜重隊編成完結
四一二	軍令陸甲第六五号に依り臨時編成下令
四一三〇	第百六一師団輜重隊編成完結
一一三	中華民国江蘇省上海に駐屯
自 一一三	上海附近の警備
至 三一九	
三一十	
八一五	上海附近の築城輸送並警備
八一六	南京着
自 八一八	南京附近の警備
至 九一三	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自　大二四
至昭二、二、二五

櫻園山荘中居に於て復員準備

二、一六　帰国の為上海着

二、九　上海出帆

二、二三　博多着上陸

2455

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十二師団兵站勤務隊略歴

陸軍大尉　楠木八重八

年月日	概要
四、二〇、一、六	陸亜機密第十三号により編成下令
一、一〇	善通寺師団第一八五〇号により善通寺騎兵第五十五連隊補充隊に於て陸運部隊兵站勤務隊編成完結
二、一	軍令陸甲第十八号により独立混成第六十二旅団兵站勤務隊編成下令
三、一〇	編成完結
四、一二	軍令陸甲第六十五号により第百六十一師団編成並に独立混成第六十二旅団兵站勤務隊復帰下令
四、二五	第百六十一師団兵站勤務隊編成着手
四、三〇	編成完結
一、一九	善通寺出発
一、三一	上海着（主力）
三、一〇	上海警備隊司令官に於て独立混成第六十二旅団兵站勤務隊に編成替

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭、二〇、三、一四	才十三軍作命丙才九八〇号により中支那野戦兵器廠に配属を命ぜられ
三、一九	同廠に到着
自 三、一九 至 四、三〇	中支那野戦兵器廠に於て兵器弾薬の補給作業並に同廠真如出張所において、爆薬戦斗資材の整備作業に従事す
五、五	上海外租界同文書院大学に移駐し
自 五、五 至 八、一五	才百八十一師団兵器勤務隊として師団編成に伴う兵器弾薬の補給並に整備作業及対戦車肉攻資材の整備作業に従事す
八、一六	移駐のため上海出発
八、一七	南京着
自 八、一七 至 九、一八	才百六十一師団才百二旅団に配属 停戦後における南京附近の警備に従事す
九、一九	集中営生活のため南京出発
	才百六十一師団才百一旅団集中営東地区たる楊園山集中営に至り

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭三、二、一五　に至る間集中宿生活
二、一五　内地帰還のため廣島出発
二、一六　上海着
二、一七　中支那野戦兵器廠内に宿営乗船待機
三、九　上海港出港
三、一三　博多港上陸

兵力

将校

隊長　一
隊付　一
計　二名

准士官（技術部）　一
計　一名

下士官

兵科　八
技術部　五
征生部　一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	摘要	数
	主計　一 計　一五名 兵 兵科　六四（入院患者四名を含む） 技術部　二七 犯生部　二 合計　一一一名 計　九三名 生死不明者（本土兵補員員） 将校　一 技術下士官　二 合計　三名 死亡者 兵（戦病死）　二名 戦死 技術下士官　三名 部隊編成定員並に主要装備表及其他別紙の如し（別紙略）	

13

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百六十一師団第一野戦病院略正

年月日	概要
昭二〇、一、六	陸亜機密第十三号に基り編成下令
一、一〇	編成完結
一、二〇	善通寺出発
一、二二	下関港出帆
一、二二	朝鮮釜山上陸
一、二四	朝鮮国境（奉天）通過
一、二六	山海関通過
一、三〇	上海到着
四、六	同地駐屯
四、一五	上海出発
	中華民国江蘇省泰県着
	同日より同地に於て野戦病院開設
	同時に南通及揚州に各患者療養所開設
〃 四、一二	軍令陸甲第六五号に基り第百六十一師団解隊編成下令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	頁
昭一〇、四、三〇	船戒発船	
八、一四	中華民国江蘇省泰県出発	
	各港着検疫所閉鎖	
八、一六	中支鎮江集結	
八、一八	軍令陸甲第百十六号に依り復員下令	
八、一八	南京集結	
	同地に在りて第百六十一師団第一野戦病院開設	
九、二〇	中華民国江蘇県に駐屯遠着検疫所開設	
十、八	中華民国江蘇県竜潭遠着検疫所開設	
一二、一六	第百六十一師団第一野戦病院及駐屯山遠着検疫所撤収さる	
二、一、三	邑軍遠着検疫所閉鎖原隊復帰	
二、一二	復員のため南京出発	
二、一四	上海到着	
三、一八	上海出帆	
三、一八	東船（楓）	
三、二一	博多港上陸	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp